

田和山の森から

“祝賀会” 盛会裏に終わる



会長挨拶

去る7月22日、環境大臣表彰受賞を記念して開催した祝賀会は、総勢47名の参加があり盛会の内に終わることができました。

会長挨拶で始まり松江市埋蔵文化財調査室の宮本室長、乃木小学校伊達校長から来賓を代表して祝辞を戴き、続いて来賓紹介がありました。来賓には祝辞を戴いた二人の外、乃木公民館中島館長、同運営協議会吉金会長、田和山サポートクラブ田中会長、森林を守ろう！山陰ネットワーク会議西郷事務局長、パナソニック

松愛会吉岡山陰支部長（順不同）の7名の方の参加があり、盛り上げて頂きました。式典後、アトラクションとして、雷電松江相撲甚句会一行による民謡の出演に移り、音戸の舟唄、南京玉すだれ等次々と披露がありました。全国的に知られた山根座長の相撲甚句は流石で名調子を拝聴しました。民謡が終わると吉金会長の乾杯で祝宴に移り、来賓のスピーチを戴きながら、それぞれに杯を交わし交流を深め予定より少し早めに中締めとなり、中島館長の発声で終了しました。ご参加頂いた皆さんにお礼申し上げます。

お礼！

当日、山陰合同銀行頭取石丸文男氏から祝電が届き、次の方々からご鄭重なお祝儀を戴きました、厚くお礼申し上げます。中島館長、吉金会長、田中会長、吉岡支部長、石橋博元田和山サポートクラブ事務局長、下瀬顧問、山根矩明元委員、石井会長、更に森林を守ろう！山陰ネットワーク会議から御樽を戴きました。その他、会員の遠藤忠夫、岡本勝也両氏から御酒を、佐伯光規氏から豆腐の提供がありました。

また、この度の会場正面に掲げた横幕の題字は、遠藤象外氏に揮毫してもらいました。会員の遠藤京子さんからは、元会員の長岡ハルエさんが田和山を詠んだ短歌をご主人の象外氏が書き、額に納めて寄贈され会場を飾ることができました。その他沢山の方々のご協力で盛会裏に終えたことに感謝いたします。

長岡ハルエさんの短歌 →



アスナロ(ヒバ)

昨年12月、15周年記念事業として植えたアスナロが今年の暑さにも負けず順調に育っています。アスナロは日本の固有種で「明日檜」とも言い、名前の由来として「明日はヒノキになろう」という意味から名付けられたという説がありますが、俗説だとも言われます。いずれにしても、ヒノキに似た木でヒノキチオールという液を多く含み、殺菌力と耐湿性に優れており、庭木や生け垣に植えられ、昔から建築材として多く利用されています。

コウゾ

今春、三隅町から寄贈を受けたコウゾの

アスナロ

苗は森の入り口にあるミツマタの近くに2本植え(4/21)、残りは尾根の東側持田邸との境界付近に植えていますが、これも順調に育っています。

今後の活動予定

8月18日(土)ソーメン流し準備、24日(金)、31日(金)、9月7日(金)、14日(金)
22日(土)、28日(金)・・・以上総て9時からの夏時間

10月5日(金)13:30～、12日(金)13:30～、20日(土)9:00～、23日(火)月遅れの月見予定[十三夜]
詳細については後日お知らせします。26日(金)13:30～

コウゾ

